

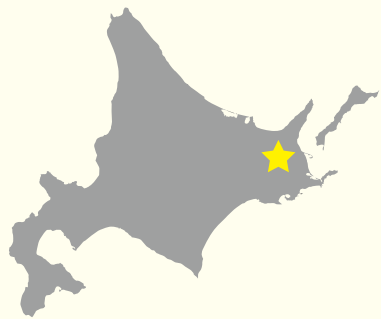
第1回

北海道写真家 フォーラム



てしかが極寒 ARt フェスティバル 2017 協賛事業
<http://acaf.teshikaga.asia>

長 倉 洋 海 と 水 越 武
そ れ ぞ れ の 北 海 道



2017.2.9 (木)

13:00 開演・入場無料

川湯ふるさと館

弟子屈町川湯温泉 2-3-40
TEL: 015-483-2060

■主催: てしかがえこまち推進協議会(主管:情報部会) ■後援: 弟子屈町、一般社団法人
摩周湖観光協会、弟子屈町商工会 ■問合せ: てしかがえこまち推進協議会事務局(弟子屈町
役場観光商工課内) TEL 015-482-2940 ■詳細問合せ: acaf@teshikaga.asia

北海道には個性豊かな写真家が育つという。写真界の直木賞
と言われる土門拳賞を受賞した二人の写真家を通し、写真
家と北海道のつながりや原点を探り、「東北北海道の魅力」を
掘り起こします。

特別講演 その貳 13:05 ~



水越 武 氏

Takeshi Mizukoshi

ヒマラヤなどの山岳写真で有名な自然
写真家。弟子屈町在住。

「北海道と写真 その歴史」

特別講演 その参 13:35 ~



長倉 洋海 氏

Hiromi Nagakura

釧路出身の写真家。紛争地や難民キャン
プで生きる人々をとらえた力強い写
真は世界的評価を受けている。

「釧路から世界へ そして釧路へ」

世界の紛争地を撮り続けてきた写真家が、ふるさと釧路と世界への
想いを語ります。

パネルディスカッション 14:20 ~

「東北北海道の魅力を撮る」

ファシリテーター

武東 祥子 氏 (釧路市立美術館学芸員)

パネリスト

神野 東子 氏 (釧路の産業を記憶する)

山本 光一 氏 (阿寒の自然を守りながら撮る)

フォーラム懇親会

17:00 ~ 参加費 2,500 円

会場: ARTInN 極寒芸術伝染装置 (川湯神社北隣)

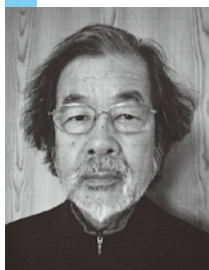
北海道写真家 フォーラム

長倉 洋海（ながくらひろみ）



1952年、北海道釧路市生まれ。同志社大学卒。1980年、勤めていた通信社を辞め、フリーの写真家となる。以降、世界の紛争地を精力的に取材する。中でも、アフガニスタン抵抗運動の指導者マスードやエルサルバドルの難民キャンプの少女ヘスースを長いスパンで撮影し続ける。戦争の表層よりも、そこに生きる人間そのものを捉えようとするカメラアイは写真集「マスード 愛しの大地アフガン」「獅子よ眠れ」「サルバドル 救世主の国」などに結実し、第12回土門拳賞、日本写真協会年度賞、講談社出版文化賞などを受賞した。2006年には、フランス・パルピニャンの国際フォトジャーナリズム祭に招かれ、写真展「マスード敗れざる魂」を開催、大きな反響を呼んだ。

水越 武（みずこしたけし）



1938年 愛知県生まれ。東京農業大学林学科中退。田淵行男の写真集『高山蝶』に感銘を受け写真を始める。1971年に発表した個展「穂高」で山岳写真界にその名を深く刻む。「生態系からみた地球」をテーマに、山々、森林、動植物の壮大な営みを世界規模で撮り続けている。1991年 平成3年度日本写真協会年度賞 写真集「日本の原生林」1994年 講談社出版文化賞写真賞 写真集「HIMALAYA」及び「ボルネオ」（クオーク）1999年 第18回土門拳賞 写真集「森林列島」2008年 平成20年度芸術選奨文部科学大臣賞2013年 平成25年度北海道文化賞

< ご挨拶 >

てしかがえこまち推進協議会情報部会は、弟子屈町の観光ポータルサイト「てしかがナビ」の運営を通し弟子屈の魅力を全国に発信しています。現在、WEBなどの情報発信には写真や動画は不可欠なものとなっています。写真も動画もスマホでいつでも誰でもボタン一つで記録可能な時代になりました。そんな時代だからこそフォーラムを通して写真とは何かという原点に戻って考えて欲しいと考えています。そして、「東北北海道」の魅力を再認識するきっかけになることを望んでいます。

てしかがえこまち推進協議会 情報部会部会長 行木衆児

神野 東子（じんのとうこ）



北海道釧路市生まれ。大学卒業後一般企業に就職するも写真家を志し退職。札幌在住の写真家中山浩樹氏に師事し、2011年より北海道や釧路市の観光広報関連誌への写真提供などを経て、写真家としての道を歩みはじめる。現在は自称「船上カメラマン」として港や沖で撮影し、海の男の逞しさや優しさ、漁業の魅力を伝える。2016年8月より写真展「漁～釧路の海と生きる～」を釧路市内他各所で巡回開催、2017年3月29日からは釧路市生涯学習センター1階で巡回展の全ての作品を集めて写真展を開催する。

山本 光一（やまもとかういち）



1965年京都市生まれ。龍谷大学卒業。京都府警察本部に勤務後、1997年に北海道の自然に魅せられ、家族で阿寒湖畔に移住し、(一財)前田一步園財団に勤務。公私を通じて阿寒湖周辺の自然と向き合い、懐深い阿寒の森が教えてくれる自然の厳しさ、素晴らしさ、美しさをカメラを通し、伝えることをライフワークとしている。著書に「自然ガイド阿寒」（北海道新聞社刊）のほか新聞、「モーリー」「ファウラ」などの道内ネイチャー誌への写真提供、執筆など多数。